

〈 諫 干 だ よ り 〉

..... 2007 / 1 / 1

目 次 .....

新年を迎えて

長崎県農林部長

九州農政局諫早湾干拓事務所長

諫早湾干拓事業にかかる最近の動き

トピックス

県議会だより(11月定例県議会より)

自然干陸地における「環境学習会」の実施について

諫早湾干拓潮受堤防開門調査命令等請求事件の行政事件に係る判決について

営農実証試験現地検討会について

平成19年度政府予算案の国営諫早湾干拓事業費の決定について

総合農試干拓科だより(環境保全型施肥技術確立への取り組み)

九州農政局干拓事務所通信(基盤整備の状況)

九州農政局通信(農地・水・環境保全対策)

その他(意見、提案の募集)

編集後記

.....  
新年を迎えて

長崎県農林部長挨拶

中村法道

新年あけましておめでとうございます。

諫干だより読者の皆さまには、希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと特に農業面では大変厳しい年となりました。9月に本県に上陸した台風13号は、住民生活や公共施設等に大きな被害をもたらし、農作物関係では、水稲の作況指数が過去最低水準の68となり、全国一の生産を誇るびわについても、樹木の倒伏や塩害による落葉など甚大な被害が発生いたしました。被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げる次第であります。県といたしましては、被災農家への支援策として、制度資金の償還条件の緩和や農業共済金の早期支払い等を行うとともに、水稲の次期作付けに向けた種子確保や、びわの樹勢回復対策予算の拡充等対策を講じていきます。

国営諫早湾干拓事業につきましては、事業完了まであと1年余となったことから営農開始に向けた準備を加速させております。現在、公募基準等検討協議会でとりまとめられた原案を踏まえた公募基準の策定をはじめ、農業者の選考に係る基準の策定や選考を行う選考委員会の設立準備等を鋭意進めているところでございます。県としましては、着実に干拓農地での営農が開始されるとともに、先進的な大規模営農や環境にやさしい農業の実践など、本県農業のモ

デルとなるよう支援してまいります。

終わりに、本年が、皆さまにとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。

## 九州農政局諫早湾干拓事務所長挨拶

内山 直治

新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年もよろしく願い申し上げます。

さて、昨年12月24日に平成19年度予算の政府原案が決定され、諫早湾干拓事業に22億7,500万円の事業費とされたところです。これにより、本事業の平成19年度完了が確定的となりました。現地では、潮受け堤防、内部堤防など周辺工事についてはすでにほぼ完成し、用水・排水設備、ほ場や農道などの整備を実施中で、事業の仕上げを行っています。

九州農政局及び長崎県では昨年10月に公募基準(原案)を発表し、平成20年4月からの営農、入植の開始に向け、準備が進められているところです。用水・排水施設の整った大区画ほ場で低農薬栽培など環境に配慮した大規模な環境保全型農業が始まろうとしています。干拓事務所では、このスケジュールを守るべく、職員一同大車輪で工事を進めています。

また、これらの農地とともに干拓工事により現出した干拓地周りの干陸地約600haの利活用についても地域の方々とともに話し合いを進めてきており、すでに高来地区周辺などでは各種イベントへの利用や環境教育が始まっています。今後、ゾーンを分け、利用と保全を両立させていくことを考えています。もう少しで自然豊かで広大な農地が完成します。ご期待ください。

### 諫早湾干拓事業にかかる最近の動き

平成18年11月28日(火)

長崎県議会が12月19日までの会期での開会された。

平成18年12月15日(金)

自然干陸地における「環境学習会」が実施された。

平成18年12月19日(火)

諫早湾干拓潮受堤防開門調査命令等請求事件の行政事件に係る判決がなされた。

平成18年12月20日(水)

営農実証試験現地検討会が開催された。

平成18年12月24日(日)

平成19年度政府予算案の国営諫早湾干拓事業費が決定された。

## トピックス

県議会だより(11月定例県議会より)……………

諫早湾干拓事業により創出された自然干陸地の利活用について、県議会で質疑がありましたので、その概要をお知らせします。

将来の自然干陸地の利活用をどのように考えているのか。

自然干陸地や調整池では既に新たな生態系が発生していることから、これを適切に保全するとともに、景観創造や環境学習の場として、あるいは他地域との交流や観光の拠点として多様な活用方策を考えていく必要があると考えており、事業完了までのスケジュールを念頭に、具体的な検討に着手してまいります。

自然干陸地の環境保全と利活用をどのように図り、また、整備していくのか。

中央干拓地前面の自然干陸地はヨシの広がる湿地帯で、冬場を中心に多くの渡鳥が飛来するなど新しい生態系も生まれつつあることから、基本的に自然環境を保全するエリアとし、このため人為的な開発は、自然観察のための木製遊歩道の整備等、最小限にしたいと考えている。

一方、小江干拓周辺の自然干陸地は、比較的地盤が高く安定しており、国道や住宅地と近接しているため、積極的な利活用を図り地域振興に資する必要があると考えている。現在、進入路をはじめとする周辺環境の整備について、国と協議を重ねている。

自然干陸地における「環境学習会」の実施について……………

12月15日、諫早市立高来西小学校の4年生45人が水質保全活動を通じて、環境問題について学ぶことを目的とした「環境学習会」が実施されました。

諫早市高来町小江の「自然干陸地フラワーゾーン」を利用して、地元団体の「魅力ある地域づくり推進協議会」による「諫早湾干拓水辺空間づくり推進事業」の一環として行われたものです。

諫早湾干拓事務所による調整池の水質保全についての説明が行われたり、生徒自ら「パックテスト」で水のきれいさを確認する水質検査を体験するなど、参加した生徒たちは真剣な目で、また元気いっぱい古里の自然について学習をしていました。

また、近くの小川に先生や生徒全員で有用微生物群入りの泥団子や水生植物を投入するなど調整池や周辺の水質保全についての認識を深めていました。

調整池の水質保全についての説明を受けている様子



.....  
諫早湾干拓潮受堤防開門調査命令等請求事件の判決について.....

12月19日に潮受堤防の開門調査を求める福岡県有明海漁連の行政訴訟について、請求を退ける判決がなされました。本裁判は、昨年1月31日に提起されたものですが、訴訟の中味としては、「有明海及び八代海を再生するための特別措置関する法律」により国には開門調査義務があるとする行政訴訟の部分と確認書等に基づく開門調査義務があるとする民事訴訟の部分の2つがあります。

今回の判決は行政訴訟について、訴訟適格に欠ける等として、原告の請求を退けたものです。

今後は、民事訴訟において、開門調査の審理が続けられていきます。

.....

営農実証試験現地検討会の開催 .....

18年度営農実証試験の第1回目の現地検討会が、実証農業者の皆さんと関係機関の参加のもと、12月20日に開催されました。昨年は9月の台風13号の襲来や、その後の干ばつ等必ずしも天候に恵まれたとはいえませんでした。既に収穫を終えた秋ばれいしょ、ブロッコリー等は上々の成果が上がっています。



(収穫間近の秋ばれいしょ)



(キャベツの生育状況)

平成18年度営農実証試験の概要

作付品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
ブッコリー (ピクセル)	定植 9月6日、7日 (半自動定植機利用)  施肥 元肥 エコスマイル 100kg 追肥 BB239号 40kg N換算20kg (元肥は畦成形同時施肥)  中耕土寄せ 9月15日、9月26日	・施肥量は県基準の約70%だが、生育は調 ・収穫は11月中旬～12月中旬。 (台風の影響により、収穫期間が長くなった) ・収量は約1,100kg程度の見込み。 ・秀品率は97%に達し、品質が非常に良かった。 ・肥料効きが良いため、生育も調だった。 ・定植、土寄せ、防除等の機械化体系も併せて検討。 ・2作目は1月中旬に定植予定。
秋ばれいしょ (ニシユタカ)	播種 9月15日  施肥 硫安 80kg(100%元肥) N換算16.8kg  収量調査 12月16日 4,951kg	・初期成育はやや遅れたものの後半は調に生育。 ・12/16時点では、霜によりほとんど枯死した状況。 ・2L以上が56%を占め、161g/個と大い傾向。 ・そうか病は発生していないが、肌荒れが見られた。 ・収穫物に土が付着するため、何らかの対策必要。 ・ほ場の一部は、11月中旬に収穫し、たまねぎを定植。 (11月中旬の収量は約2t)
秋ばれいしょ (ニシユタカ)	播種 9月19日～20日  施肥 元肥 硫安40kg 追肥 硫安20kg(培土時) N換算12.6kg  収量調査 12月16日 4,165kg	・干ばつ年だったが、生育は調(灌水を1回実施) ・12月21日以降の収穫となるため、収量はこれより増加する見込み。 ・ハシモンヨウの被害を心配したが、病害虫は発生せず無農薬で栽培できた。 ・既耕地が平均約2tの収量であり、結果には非常に満足している。
キャベツ (YR50, 緑春)	定植 9月7日(10月2日)  施肥 元肥 硫安 80kg 追肥 硫安 40kg N換算25.2kg  収量調査 11月30日 5,150kg	・昨年に比べて施肥量を減らしているが、生育は調。 ・台風及びビコオロギの被害、雑草多発でやや減収。 ・9月定植分で雑草が多発した。
レタス	定植 11月16日～18日  施肥 元肥 有機入り高度化成 160kg N換算16kg	

他に、たかな(播種済み)、たまねぎ、春ばれいしょの試験を開始又は今後開始予定。

平成19年度政府予算案の国営諫早湾干拓事業費決定について……………

去る12月24日に決定された平成19年度予算の政府予算案で、国営諫早湾干拓事業の事業費が農林水産省の要求どおり22億7千5百万円計上されました。これにより昭和61年度から始まった干拓事業の来年度完成が確実となりました。

最終年度となる平成19年度は、干拓地内の幹支線道路の舗装工事や農地の土壌改良工事、調整池のヨシ植生による水質保全対策工事等が実施されます。

総合農試干拓科だより……………

営農試験 Now

- 諫早湾干拓地でのカーネーション栽培状況 -

総合農林試験場干拓科  
山崎 和之

はじめに

長崎県は全国第6位のカーネーション生産県で、全国的には作付けが減少傾向にある中、唯一作付け面積を伸ばしています。また、本県の花き出荷量に占めるカーネーションの割合は、約20%であり、キクに次いで生産の多い主要な振興品目であります。

諫早湾干拓事業の中でも営農類型の1つとして大規模施設によるカーネーション栽培を挙げており、干拓地内の試験圃場でも、平成17年度からカーネーションの試験栽培に取り組んでいますので、今回は干拓地でのカーネーション栽培の状況について報告します。

栽培施設の紹介。

施設面積は1.8a、硬質フィルムを張った屋根型の温室の中で栽培を行っています。栽培床は、慣行の木枠を組んで底に波型スレートを敷いた隔離床とくみあいスーパードレインベットの2種類を使用し、床土には干拓土を用いています。



写真1 温室の外観



写真2 木枠の隔離床



写真3 くみあいスーパードレインベット

省力化のため、かん水同時施肥システムを導入しています。写真4がかん水量や時間、肥料濃度を設定するメインユニット。写真5は肥料を一定濃度に希釈しておくタンク。写真6はかん水量にあわせ設定した濃度になるよう、液肥混入定量ポンプです。かん水チューブは点滴用のラムチューブを使っています。



写真4 メインユニット



写真5 希釈タンク



写真6 定量ポンプ

#### 栽培の概要

定植前に土壌の蒸気消毒を行っています。

スーパードレインベットは、下部の導入口に高圧ホースをセットし、排水用の空洞から上面に向かって温度をかけていきます。接合部分の隙間から多少の蒸気漏れはありますが、末端まで十分に高温処理できました。ベッドの上に消毒ホースをセットしなくて良い分作業時間は短くて済みました。

試験品種として「ライトピンクバーバラ」を、平成17年は6月21日に、平成18年は6月28日に株間20 cm の4条植えて定植しました。定植後は活着促進のため十分なかん水を行い、約1ヶ月を目処に点滴かん水に切り替えます。

施肥は、かん水同時施肥による追肥のみで、気温が高い時期は、かん水量を多く肥料濃度を下げて、気温が低い時期はかん水量を抑えて肥料濃度を高くするなどかん水量と施肥量のバランスをとりながら、各月毎に設定を変えて行っています。収穫は平成17年は10月下旬から翌年5月



収穫直前のカーネーションの様子  
右上:ライトピンクバーバラ

#### 収穫の状況

平成17年は10月25日から収穫をはじめ、平成18年5月31日までで、株当たり7.5本の

切り花を得ました。株当りの切り花本数はやや少なかったものの、草丈や輪数は十分とれており、花のボリュームは有りました。

平成18年は昨年より早い10月6日から収穫をスタートしています。12月18日現在までで、株当たり3.3本を収穫、年内は昨年の2.4本より1本多いペースで収穫できているので、最終的には株当たり9本程度の切り花を見込んでいます。

表1 カーネーション・ライトピンクバーバラの年次別収穫状況

月	2005年産			2006年産		
	本数/株	平均草丈	平均輪数	本数/株	平均草丈	平均輪数
10	0.3	58.2	6.0	1.0	58.7	5.5
11	1.3	62.4	6.2	1.7	62.6	5.4
12	0.8	64.5	6.2	0.6	60.3	5.4
1	0.7	68.2	6.6	-	-	-
2	0.5	75.1	6.1	-	-	-
3	0.9	84.9	6.1	-	-	-
4	1.3	82.1	7.2	-	-	-
5	1.7	78.4	6.4	-	-	-
計	7.5	72.1	6.4	3.3	61.0	5.4

注) 2005年産は2005年10月25日から2006年5月31日までを集計

2006年産は2006年10月6日から12月18日現在までを集計

## 今後の展望

諫早湾干拓地での大規模施設での営農の実現に向けた低コスト・省力化対策として、カーネーション栽培では、かん水同時施肥による施肥体系の確立や2条植え、多年切り技術、生物農薬や防蛾灯の利用によるIPM防除などの実証・試験に取り組んでいこうと考えています。

その他にも、諫早湾干拓地で施設園芸を行うには、施設の耐候性、施設用地の地耐力、調整池の水の水質などの様々な疑問点があると思いますので、それぞれモニターを続けながら入植者の方が安心して営農に取り組んで頂けるよう、調査、試験をしていきたいと思っています。

## 九州農政局干拓事務所通信(揚水機場及び用水路について)

### 1. 揚水機場

干拓地の農業用水は淡水化した調整池を水源とする計画であり、中央干拓地及び小江干拓地それぞれに揚水機場を設置しています。

中央揚水機場は口径200mmから150mmの主ポンプ8台、小江揚水機場は口径150mmの主ポンプ2台を設置しており、農業用水を調整池から揚水します。

### 2. 用水路

揚水機場からの農業用水を各ほ場まで送水する用水路(パイプライン)を設置しています。

中央干拓地には用水路を4系統・10路線、延長約17km、直径400~125mmのパイプラインを幹・支線道路沿いに埋設しており、末端水路を經由してほ場に設置されている耕作道路の給



水栓までつながっています。

給水栓は耕作道路沿いに基本的に37.5m間隔で配置されています。また、水路末端の作業水圧は2.5kg/cm<sup>2</sup>の計画です。

同様に小江干拓地にも1系統・2路線、延長約4km、直径300～150mmのパイプラインを設置しています。

天候に左右されず、安定した農業用水の使用が可能となります。

中央揚水機場



中央揚水機場からほ場へ送水する用水路



小江揚水機場



耕作道路沿いにある給水栓



(手前は内部堤防、右奥に中央排水機場を望む)

九州農政局通信(畑地中心の地域の活動事例) .....

本事業の円滑な導入等のために、17年度は「試行的な活動計画作り」、18年度は「支援実験事業」を進めていますが、今回は、これらの事業推進のため作成された「活動事例集」の中から、具体的な活動計画等を紹介します。

最初は、畑地中心の地域の活動事例として、沖縄県宮古島市大浦地区の事例を紹介します。

【地域の概要と取組の経緯】

宮古島では、元来、地域共同の伝統が根づいており、水路



耕土流出を防止するグリーンベルト

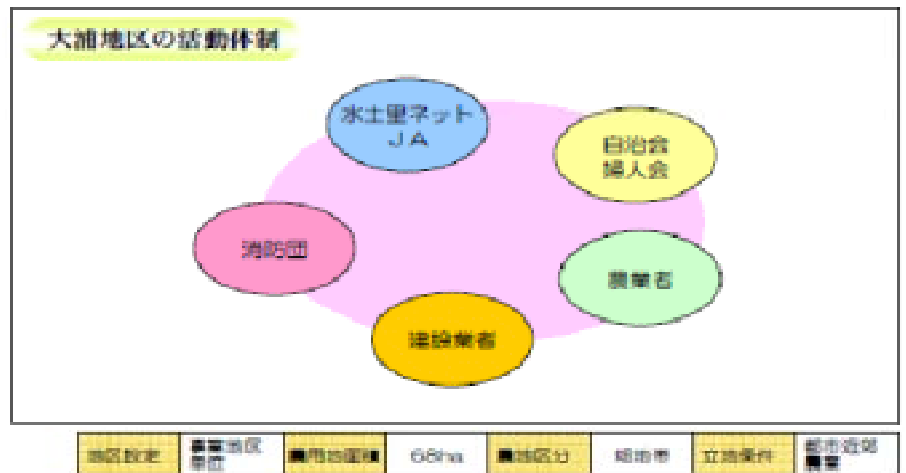
や農道などの資源を守る活動への住民意識は高いものがありました。近年、赤土の流出による排水路や農道への土砂堆積、沿岸の海洋汚染等の問題が話題になり、大浦地区では環境保全のための行動の気運が高まりました。

平成15年6月、「緑の日」に合わせて大浦土地改良区の呼びかけで、ほ場からの赤土流出を防止するグリーンベルトの植栽が、地域住民の手で行なわれたのが新たな取組の始まりでした。地域では、農地・水・環境保全向上対策の活用を通じて、共同活動や体験学習をととした宮古島の豊かな自然環境や農業の大切さを島の子どもたちに伝えていく取組を更に前進させようと考えています。



【対象となる資源の範囲と活動組織】

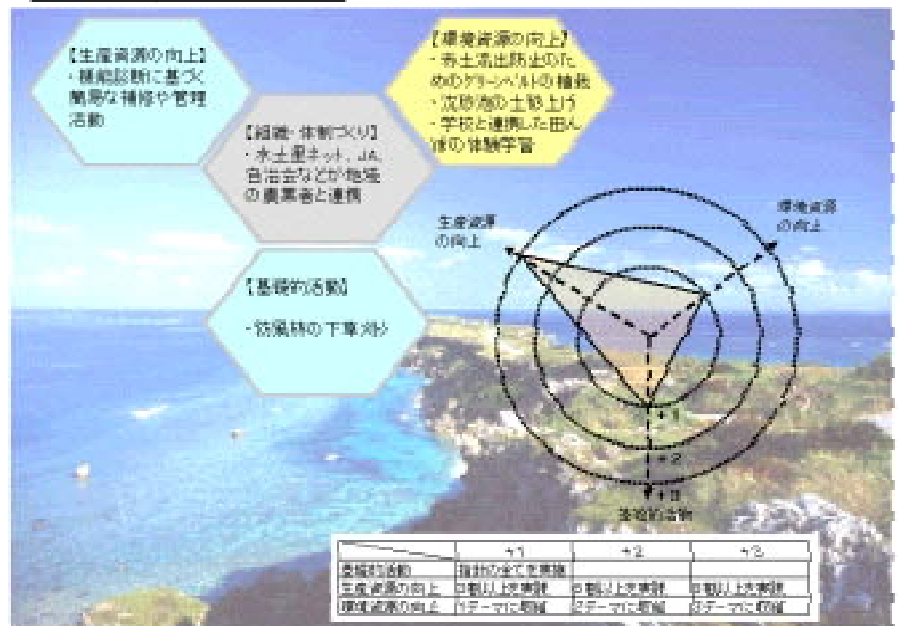
本地区は、国営かんがい排水事業により、畑地かんがい施設が整備された受益地を区域として設定され、活動組織は、右の活動体制のとおり、農業者や土地改良区のほか、建設業者、消防団など多様な組織が構成員となっているところが特徴です。



【実施計画】

右の活動計画の特徴に示すように、基礎部分は防風林の下草刈りとシンプルな活動ですが、環境資源の向上(農村環境向上活動)の部分は、取組の契機となった赤土の流出防止に関する活動や体験学習など多彩で、活動成果が地域環境の保全向上に寄与することが期待される内容となっています。

活動計画の特徴



## その他(意見、提案の募集) .....

～皆様のご意見をお寄せ下さい～

定期的に、諫早湾干拓室からのお便りを差し上げているところですが、お知らせの内容その他につきましてのご意見やご要望等ございましたら、諫早湾干拓室までお寄せ下さい。

なお、今後、お便りを差し上げる場合にEメールでの送付をご希望の方はメールアドレスをお知らせ下さい。

送付先 〒850 - 8570 (住所記載不要) 長崎県農林部諫早湾干拓室  
(TEL 095 - 895 - 2051 FAX 095 - 895 - 2595)

Eメール s07050@pref.nagasaki.lg.jp

お願い Eメールでご意見やご要望等をお寄せいただく場合には、恐れ入りますがメールの件名を 諫干だよりで設定し送信をお願いします。

## 編集後記

希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。今年も皆さまにとって実り多き年となりますよう祈念いたします。諫早湾干拓事業も事業完了まで1年余りとなりました。本年3月に予算ベースで99%の進捗率となり、平成19年度は最後の農地整備等の事業となります。いよいよ、営農が間近に迫っております。広大、平坦で、土壌は肥沃、農業用水も豊富な、優良な干拓農地で、環境にやさしい農業を営むことにより、長崎県をリードする先進的農業が実践されるものと思います。

今年も諫早湾干拓事業に関する情報をお知らせするよう努めますので、よろしくお願いいたします。